



表門橋を渡る観光客。和装を通して長崎ならではのおもてなしを広めている「長崎はいからさん」のカンタンきものを着用。気分はまるで往時の出島へタイムスリップ!?

時を超えて 表門橋 完成

出島復元整備室 (☎ 829-1194)

往時の雰囲気を感じて

江戸時代に、ヨーロッパとの貿易の唯一の窓口だった出島。西洋文化や蘭学をはじめ、さまざまなものが出島を通じて日本全国へ広がり、日本の近代化の礎を築きました。

かつては、中央部に長さ約4.5mの石橋が架かっており、人々はその橋を渡って出入りしていました。

明治に入り、出島が役割を終えると川幅の拡張工事により石橋は撤去。扇形の内側部分が削り取られ、川の反対側は埋め立てられました。

出島が果たした歴史的役割を未来へ伝えるために、市では昭和26年から「出島復元整備事業」を開始。これまでに16棟の建物の復元が完了し、平成29年11月、約130年ぶりに出島表門橋が完成しました。

昔の人々と同じように橋を渡って出島に出入りすることができるなんて、ワクワクしませんか。さあ、皆さんも表門橋を渡って出島を訪れてみてはいかがでしょうか。

日蘭で完成を祝う

完成を記念して、11月24日に式典を現地で開催。市民の代表や日本とオランダの来賓約800人が出席しました。秋篠宮同妃両殿下とオランダ王室からアレクサンダー国王の弟の妻であるローレンティン妃が臨席され、橋の渡り初めをされました。

新たに「出島表門橋公園」 を整備しました

イベント空間として活用できます

出島対岸の中島川沿いに、長さが約240mの細長い公園が完成。屋根付きスペースや休憩ベンチ、公衆トイレを設置し、バリアフリーにも配慮しています。イベントなども開催でき、新たな賑わいが期待できます。



隠れミッフィーを探そう♪

オランダ生まれの人気キャラクター「ミッフィー」が公園のどこかに隠れています。9カ所にあり、訪れる人を楽しませてくれます。ぜひ探してみたいかがですか？



夜の景観もステキに☆

夜は出島の白壁や表門橋、公園内をライトアップしています。今の時期は少し寒いかもしれませんが、夏には新たな夕涼みスポットに。夜の出島周辺も必見です。出島は夜9時まで開館しています。



町並みも復元

平成28年10月には6棟の建物を新たに復元。中央の通りの町並みが2倍の長さになりました。



企画展「青い薔薇」開催中

江戸時代から明治時代にかけて、出島を通じてさまざまな西洋陶器が日本にもたらされました。オランダ・マーストリヒト市から借りた資料を初公開しています。



特集 その1

130年の 出島

表門橋のここがすごい

史跡である出島を保護するために、表門橋の重点を対岸の江戸町側に置く

ソニーのような特殊な構造をしています。

橋は、重さ約50トン、長さ約38・5m、幅約4・5mの鉄製です。建設にかかる費用には、経済界を中心にいただいた多くの寄付が充てられています。

架橋の瞬間をもう一度

平成29年2月に大型クレーンを使い架橋された表門橋。その様子を動画で振り返ります。下のQRコードからご覧ください。



出島表門橋を新たな交流の架け橋に

出島がある出島町と、隣の江戸町は、約130年ぶりに出島表門橋でつながりました。表門橋の完成で、これまで以上に地元を盛り上げようとしている人たちにお話を伺いました。

出島とともに元気なまちに



「出島町も子どもの頃とはずいぶん変わった」と話す銭上義秀さん

出島が、秋篠宮同妃殿下やローレンティン妃にお声をかけていただけたことが、印象に残っている」と頬をゆるめます。

普段は自治会の副会長を務めている銭上さん。町内にある出島では「毎年春に自治会の花見。長崎くんちでは庭見世も行っている」と地元ならではの粋な活用も。今年はいくちの踊町で「庭見世はもろろ出島で」と笑顔で話し、自身は長采の大役を務めるとのこと。表門橋で江戸町側とつながり、「さらに違った雰囲気でもてなしができるので、ますます期待を寄せています。」

これからもつながりを大事に

「まちのこともっと知ってほしい」とそんな思いから、昨年5月に江戸町ではプロジェクトチームを発足。自治会や商店街など4つの団体からなり、山道さんがリーダーを務めています。今回、表門橋が一般開放された日に合わせて、江戸町スタンプラリーを開催。「実際に歩いて、まちの魅力に触れてほしい」との思いからこのイベントを企画しました。

「江戸町には歴史的な魅力がいっぱい」と話す山道さん。約400年前の石垣があったり、



江戸町のシンボル「たこのまくら」



「新たな人の流れに期待している」と話す山道英樹さん



スタンプラリーではお茶のふるまいなども行いました

イベント当日は、カステラのふるまいなども行い、用意していたパンフレット2000枚がほとんどなくなるほど大盛況。商店街に入っていない店舗にも協力してもらい、これまであまり関わりがなかった人たちがつながって、「まちの中でも新たな交流が生まれた」と喜びます。

今後、「今回生まれた交流を大事に、次につながるイベントを企画したい」という山道さん。まちのPRのために次を見据えています。

時代を超えて

まちや人を元気にできる場所

出島復元整備事業は、昭和26年に始まり、今年で67年目を迎えます。最終目標は出島を「四方を水で囲まれた扇形の出島」に戻すこと。2050年ごろの完成を目指す一世紀にわたるプロジェクトです。

出島表門橋が完成したことは、この事業の大きな分岐点。この場所を活用して、さっそく新たな賑わいが生まれています。かつて交流を通して新しいものを生み出してきた出島は、時代を超えて、再び長崎のまちや人を元気にしています。

これからも続く復元の旅路。きつとワクワクするような長崎の未来へとつながっていくことでしょう。



「長崎出島之図」川原慶賀画
(長崎大学附属図書館所蔵)

出島復元計画はこの頃の出島をモデルにしています

「ようやく表門橋が完成して感慨深い」と話す銭上さんは子どものときから出島町に住み、出島復元整備事業を間近で見守ってきました。自身が小さい頃には、「出島にはまだ商店が建ち並び、いろいろな人が生活する場所だった」と懐かしそうに当時を振り返ります。



式典で披露されたアトラクション

出島の復元が始まって60年以上が経ち、表門橋が完成。式典では、江戸町のオランダ船の展示や、出島町と江戸町の子どもたちが参加した出し物が祝賀ムードに花を添えました。

銭上さんは出島町の出し物の調整役を担い、「式典を終え、参加した子どもた